

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月17日午前 1/2

会場	Leo Esaki メインホール	101	中ホール200	201A	201B	202A	202B
開始時刻	S1 林学史	S8 地域の森と暮らし	S7 樹木の環境適応			T2 保健休養	T3 森林の放射能
9:00	S1-1 見果てぬ夢：経験主義・現場主義に根差した多様な森林施業の成立：大住克博（大阪市立自然史博物館）	S8-1 地域の森林を活かしたこれからの暮らし：徳地直子（京都大学）	S7-1 近年分かつてきたダケカンバの生態と環境適応研究の意義：相原隆貴（筑波大学）			T2-1 発表取り消し	趣旨説明
9:15	S1-2 抽象化・普遍化の近代科学と黎明期の森林水文学：田中隆文（名古屋大学）	S8-2 官民連携で地域の価値を生み出す事業—多様なステークホルダーと森をひらく：松本剛（株式会社飛騨の森でクマは踊る）	S7-2 異なる気候条件下におけるダケカンバの気孔密度とサイズの変化：蔡一涵（東京大学）ら			T2-2 Potential of controlled natural tree regeneration (CNR) for urban forest management in Kampala, Uganda : キバラママビン・ボガレ（Tokyo University of Agriculture）ら	T3-1 航空機モニタリングによる森林の放射性Cs沈着量の時間変化は何を示すか？：金指努（福島大学）ら
9:30	S1-3 “林学”以前—近代学問の博学達標：三島美佐子（九州大学総合研究所）	S8-3 製材所が考える、木の文化と産業のあわい：及川幹（株式会社やまかわ製材舎）	S7-3 共通園場におけるダケカンバの被食量と防御形質の集団間変異：双木寛人（東京大学大学院）ら			T2-3 内的作業モデルの対象としての風景（第2報）：尾崎勝彦（大阪公立大学）ら	T3-2 球磨森林における表層土壤の交換性¹³⁷Cs存在割合の変化：越川昌美（国立環境研究所）ら
9:45	S1-4 森林利用学における技術革新：酒井秀夫（日本木質バイオマスエネルギー協会）	S8-4 官民連携で地域の価値を生み出す事業—多様なステークホルダーと森をひらく：井上彰（株式会社飛騨の森でクマは踊る）	S7-4 How Environment and Provenance Shape Soil and Root Fungal Diversity in <i>Betula ermanii</i> : Insights for Forest Conservation : Aye Myat Paing (東京大学) ら	経営1		討論・調整	T3-3 樹皮中の¹³⁷Cs濃度の長期変動：外樹皮の汚染はどこまで低減するか？：大橋伸太（森林総合研究所）ら
10:00	S1-5 輸入学知・在来のキメラとしての造園・ランドスケープ分野の展開と林学：水内佑輔（金沢大学）	S8-5 飛騨地域における朴葉利用の変容—森林資源は利用されているか：中津川修太郎（京都大学）	S7-5 ダケカンバ産地試験地における萌芽特性と種子採取地の環境特性：室谷耕香（信州大学）ら			T2-4 ビル街の真ん中で森林浴：大字町の森が示す都市林の効力の解明：高山範理（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	討論・調整
10:15		S8-6 「環境ものさし」ではかる広葉樹林業の持続可能性：浅野悟史（京都大学）ら	S7-6 ダケカンバの萌芽様式と潜伏芽分布パターンの関係性：本間敬介（新潟大学）ら			T2-5 地域の森林を活用した森林療法の研修会の事例：上原巖（東京農業大学）ら	T3-4 林床における落葉層の有無が広葉樹の放射性セシウム濃度に与える影響：山村亮（国土防災技術株式会社）ら
10:30		S8-7 広葉樹のまちづくりにおける市民参加—MSC手法を用いた評価の試み：时任美乃理（京都大学）ら		林政1		討論・調整	T3-5 落葉除去による森林源流域での水質形成及び ¹³⁷ Cs流出機構の解明：永田祐太郎（筑波大学）ら
10:45		S8-8 飛騨市出身者を対象としたアンケート調査から聞こえてきたこと：法理樹里（農林水産省 農林水産政策研究所）					T3-6 安定同位体セシウムを用いたヒノキ林の放射性Cs循環解析：坂下涉（森林総合研究所）ら
11:00			A-1 阿蘇地域の草原が辿った森林への変遷過程：八巻一成（森林総合研究所）ら				T3-7 福島県の森林における野外菌床栽培キノコへの ¹³⁷ Csの移行と蓄積：渡邊未来（国立環境研究所）ら
11:15			A-2 京都大学上賀茂試験地の移転に京都府と京都軍政部はどのように関わったのか：坂野上なお（京都大学）				討論・調整
11:30			A-3 日本の森林政策の非民主化：軍事の視点から：熊谷千代子（東京大学）ら				ポスター紹介
11:45							ポスター紹介
12:00							
12:15							
12:30							
12:45							
13:00							
13:15							
13:30							
13:45							

ポスター発表のコアタイム（対面会場）

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月17日午前 2/2

会場	中ホール300	303	304	402	404	405	406
開始時刻	S10 林野公共のあり方	S6 生理部門シンポ	S12 さし木の根系	委員会等		S9 大船渡林野火災	T6 デジタルツイン
9:00	S10-1 「林野公共事業を問う」ごとの現代的意義と研究課題：佐藤富子（九州大学）	S6-1 ユーカリから单葉されたアルミニウム無毒化タンニンの生合と育成環境に基づいた不定根誘導成機構の解明：山満千尋（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	S12-1 撃し木不定根誘導シングナルと森林変化の長期モニタリング：渡辺敦史（九州大学 大学院）			S9-1 林野火災後の樹幹火傷調査と森林変化の長期モニタリング：峰嘉哉（京都大学）ら	T6-1 フォレストデジタルツイン構築に向けた VTOL による広域森林計測：兼城志郎（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
9:15	S10-2 日本全土の過去37年間ににおける皆伐・再造林状況と天然林景観創造の変化：牧重涼子（九州大学）ら	S6-2 樹木生理学と環境造林：小島克己（東京大学）	S12-2 土砂災害防止機能発揮に向けたスギ撃し木品種における根系構造の理解：吉村知也（九州大学 大学院）ら			S9-2 大船渡市林野火災の復旧に向けた岩手県の取組：菊地明子（岩手県）	T6-2 非皆伐林分における新たな計測技術の提案：趙晨（ジオサークル株式会社）ら
9:30	S10-3 豪雨による表層崩壊の発生要因に保安林制度が与える影響：金子徹平（九州大学）ら		S12-3 近年九州地方で発生した斜面崩壊と森林による崩壊土砂制御の事例：水野秀明（九州大学）			S9-3 林床可燃物が燃焼強度に及ぼす影響と林野火災後の影響評価に向けた取り組み：吉藤奈津子（国研） 森林研究・整備機構）ら	T6-3 下層木損傷最小化のための伐倒作業：大塚大（国立研究開発法人 森林研究・整備機構）ら
9:45	S10-4 地域森林計画や届出情報に基づく全国および東北地方の伐採や造林の状況：當山啓介（岩手大学）ら		S12-4 センダンの隠れた根の機能：樹齢にともなう根系変化と根ざし増殖の可能性：向井伸生（宮崎県林業技術センター）			S9-4 大規模林野火災による林木被害の形態と火災後の植生回復：酒井敦（森林総合研究所東北支所）ら	討論・調整
10:00	S10-5 地域森林計画別に見た戦後造林の人工林前生植生：上野竜大生（九州大学大学院 生物資源環境科学府）ら					S9-5 林野火災が土砂流出と植生に及ぼす影響：松本一徳（岩手大学）ら	T6-4 TLS計測から構築したQSMによる森林光環境シミュレーション：仮屋園純平（東京大学）ら
10:15	S10-6 我が国の林業機械化の何が失敗だったのか？－球磨地方の皆伐地を事例として：吉村哲彦（島根大学）ら					S9-6 林野火災が森林生態系の物質循環に与える影響：五十嵐康記（筑波大学）ら	T6-5 高性能サーバーを用いた大規模点群処理による樹木解析：板倉健太（ImVisionLabs株式会社）ら
10:30	S10-7 流域の森林変化がダム堆砂量に及ぼす影響：麻治光一郎（東京大学）ら					S9-7 火災後の生態学的記憶と森林管理－土壤微生物相が示す復元力－：上村真由子（日本大学）ら	T6-6 林野事業補助金のデジタル申請・検査情報のデジタルツインへの活用戦略：高橋正義（森林総合研究所）
10:45	S10-8 北海道十勝地域における造林補助金の展開構造：尾分達也（北海道大学大学院農学研究院）						討論・調整
11:00							T6-7 4D FMCW LiDARを使った3D環境地図の構築：西川祐矢（ジオサークル株式会社）ら
11:15							T6-8 3D地形データを搭載したゲーム機型ハーベスターを用いた3D環境地図の構築：和田陽一（エアロトヨタ株式会社）
11:30							討論・調整
11:45							
12:00	学会企画1						
12:15	ランチョンミーティング 「困りごとを共有しよう！ Part2」 ※12:00開始					日誌 編集委員会	
12:30							
12:45							
13:00							
13:15							
13:30							
13:45							

ポスター発表のコアタイム（対面会場）

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月17日午後 1/2

会場	Leo Esaki メインホール	101	中ホール200	201A	201B	202A	202B
開始時刻	T4 総合学・原論	S13 環境森林生理生態	S14 林内ドローン開発	林政2	経営2	S15 森林教育の発展	T5 樹木根
14:15	T4-1 総合学・原論としての森林科学の射程と可能性：平野悠一郎（森林総合研究所）	S13-1 変動環境下におけるカラマツの共生菌類の役割：小池孝良（北海道大学）ら	S14-1 森林内ドローン飛行の動向と森林分野での応用：加藤頌（千葉大学）	A-4 2020年国勢調査が示す林業世帯の特徴：林宇一（宇都宮大学）ら	D-7 機種のモバイルレーザースキャナーの精度比較：辰巳晋一（京都大学大学院）ら	S15-1 幼児の遊びを支える身近な樹木と木のおもちゃ：吉澤千夏（上越教育大学）	趣旨説明
14:30	T4-2 19世紀ドイツの国家学における林政学と森業理論の交錯とその現象への示唆：山岸健一（林業経済研究所）	S13-2 森林におけるテルベン類放出速度の季節性と生息環境履歴の関係性：増井昇（静岡県立大学）ら	S14-2 小型反射鏡計による森林内の反射線量分布の解析：田中博幸（公益財団法人日本分析センター）ら	A-5 農林業センサスに見る林家の農林業活動：芳賀大地（駒込大学）ら	D-8 近自然型林業におけるパックパック型LiDARを用いた森林調査の試み：岸本光樹（東京大学）ら	S15-2 小学校高学年を対象とした生物多様性への关心を育む教材の開発について：杉野卓也（公益社団法人日本山林会）	T5-1 線質砂鶴海岸に生育するクロマツの根系構造：平野恭弘（名古屋大学）ら
14:45	T4-3 明治後期における「学校樹木」関連規定：一県訓令を中心に：田中千賀子（立教大学）ら	S13-3 日本の都市環境で樹木光合成にオゾン影響が検出されにくいのは何故か：久米篤（九州大学）ら	S14-3 林内ドローンLiDARの優位性とデータ特性：山田誠太郎（千葉大学大学院）ら	A-6 農林業センサスにみる退出・参入した林業経営体の農業経営：多田忠義（農林水産省）ら	D-9 地形を用いた多時期TLSデータの位置合わせに関する検討：伊藤小太朗（名古屋大学）ら	S15-3 国立青少年教育施設における地域資源を活用した森林環境教育の実践：坂本純一（国立青少年自然の家）	T5-2 曲げストレスがクロマツの幹及び根の肥大成長に及ぼす影響：勝田早紀（森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
15:00	討論・調整	S13-4 スギとヒノキのガス交換特性の鉛直分布が林冠光合成と蒸散に与える影響：渡辺誠（東京農工大学）ら	S14-4 森林内飛行を可能にするドローン障害物検知システムの開発：野田龍介（東京工科大学）ら	A-7 農林業センサスと国勢調査の林業從事者データ分析：田中亘（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	討論・調整	S15-4 冬季の野外活動を経験したうえ、難聴の中学生が冬の森に感じる魅力：針ヶ谷雅子（うう・難聴児の体験活動を支える会）	T5-3 東日本大震災14年後の海岸クロマツにおける外生菌根の群集構造と酵素活性：瀬川あすか（三重大学）ら
15:15	T4-4 動植物学の系譜に関する試論：齊藤優生（東京大学）	S13-5 日内変動を補正した樹液流速に基づくスギ林の林冠コンダクタンスの推定：田中亮志（東京農工大学）ら	S14-5 森林内ドローンの自律航行と今後の展開：鈴木智（千葉大学）	A-8 農林業センサスにみる林業作業受託・立木買い経営体の時系列分析：藤野正也（福島大学）ら	D-10 北方林における景観スケールでの平均林冠高と林冠粗度の関係：細田理仁（北海道大学）ら	S15-5 野外教育の場としての森林の役割：高橋達己（筑波大学）ら	討論・調整
15:30	T4-5 樹木葬の普及と日本人の自然信仰との関係：樹木が関わる習俗の歴史的変遷：小室駿（東京農工大学）ら	S13-6 日本海側の変動する大気沈着に対するスギ森林集水域の応答：2002-2025：佐藤裕之（アジア大気汚染研究センター）ら	S13-7 热帶林樹木の樹高に伴う葉の生理生態的特性の変化：田中憲蔵（国際農林水産業研究センター）	討論・調整	D-11 スギ・ヒノキ高密度林におけるSIM点群データを用いた单木検出：山本啓（広島県立総合技術研究所）ら	S15-6 子育て世代の森林に対する認識の解明：つくば市の効果的な森林活用に向けて：渡邉仁（筑波大学）ら	T5-4 降雨・斜面崩壊メカニズムと根生根系の役割：スケールの視点から：五味高志（名古屋大学）ら
15:45	T4-6 昭和初期の施業計畫資料からみた神社林の保全と森林施業－奈良県を事例に－：舟橋知生（竹中大工道具館）	S13-8 生材生産をめぐる取引構造と山林仲介者の位置付け：佐藤大翼（鹿児島大学）	S13-9 生材生産をめぐる取引構造と山林仲介者の位置付け：佐藤大翼（鹿児島大学）	A-9 生材生産をめぐる取引構造と山林仲介者の位置付け：佐藤大翼（鹿児島大学）	D-12 ALSデータを活用した樹高成長曲線の精度検証：大矢信次郎（長野県林業統合センター）	S15-7 森林教育活動を進める上での課題と支援策：寺崎嘉春（一般社団法人日本森林インストラクター協会）	T5-5 中間温帯針広混交林における24樹種の汲水深度测定：勝浦恵（国際農林水産業研究センター）ら
16:00	討論・調整			A-10 林業事業体における立木の大径化への対応：松本美香（高知大学）	D-13 賽争指標を組み込んだ森林構造モデルによるDBH推定精度の評価：江口則和（人間環境大学）		T5-6 山岳域における樹木細胞の水獲得戦略：水フラックストと根系存量からの探求：増本泰河（筑波大学）ら
16:15	T4-7 池田真次郎の日本型ワイルドライフ・マネージメント思想と獣区制度構想：古賀達也（森林総合研究所）ら			A-11 高性能林業機械のレンタル・リースの現状：齊藤まさひ（東京農業大学）	討論・調整		討論・調整
16:30	T4-8 森林の風土と文化の調和－日本の木育草の共生を中心－：岩松文代（北九州市立大学）			討論・調整	D-14 ドローンとAIによる森林資源量の全自動解析プログラムの開発：原英（精密林業計測株式会社）	C-1 森林調査における枯死根割定の難しさを基く：大橋瑞江（兵庫県立大学）	T5-7 森林調査における枯死根割定の難しさを基く：大橋瑞江（兵庫県立大学）
16:45	T4-9 免責取り消し			A-12 南九州における木材産業の外国人雇用：瀧沢裕子（鹿児島大学）	D-15 航空レーザー計測データを用いた林内下層植生被覆率の推定：藤井創一朗（アジア航測株式会社）	C-2 学生を対象とした砂防えん培モデル実験の改良と授業実践：東原貴志（上越教育大学）	T5-8 森林における細根のフェノロジーと生産量の評価のための画像解析技術：水澤加里部（北海道大学）
17:00	討論・調整			A-13 地域林業における持続可能な労働力確保に向けた新規就業者の定着要因分析：張容（名古屋大学）	D-16 YOLO-SegによるDCHM特微量を適用した計葉樹樹冠の抽出：曾田森羅（鳥根大学）	C-3 森のお話はどこから来る？－経本の作者と時代の視点から－：杉浦克明（日本大学）	T5-9 モウソウチク林で考える純生産量と土壤呼吸の関連性：久米朋宣（九州大学大学院）
17:15	T4-10 流域にみがえる人と森林の新たな関係：山本美穂（宇都宮大学）			討論・調整	討論・調整	教育1	討論・調整
17:30	T4-11 岡山県のため池と森林－勝谷稔氏の言説に差しして－：古井戸宏通（東京大学）					C-1 身近な樹木を活用した保育者養成校での木育：遠藤知里（常葉大学短期大学部）	総合討論
17:45	T4-12 森林の持つ両面性：寺下太郎（愛媛大学大学院）					C-2 学生を対象とした砂防えん培モデル実験の改良と授業実践：東原貴志（上越教育大学）	
18:00	T4-13 値値多元主義と社会生態システムに基づく森林価値ダイアログカードの提案：田中和彦（南山大学）					C-3 森のお話はどこから来る？－経本の作者と時代の視点から－：杉浦克明（日本大学）	
18:15	討論・調整						討論・調整
18:30							
18:45							

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月17日午後 2/2

会場	中ホール300	303	304	402	404	405	406
	T1 生物多様性保全	S4 热帯林業適応策	S11 持続的な発電事業		特用林産	防災・水文1	T7 ネットゼロ森林
14:15	趣旨説明	S4-1 Enhancing resilience to tropical timber species in terms of species distribution model : 津山健太郎(森林総合研究所北海道支所)ら	S11-1 宿都市における地域社会に根差したバイオマス発電事業の構築: 永野正朗(株式会社グリーン・エネルギー研究所)	N-1 気候変動に伴うマツタケ発生期間の変化-約半世紀の調査結果から: 古川仁(長野県林業総合センター)ら	J-1 鉛直流と傾斜方向流の違いを流出応答と湧水温形成の観点から考える: 谷城(京都大学)	T7-1 森林管理シミュレーターを用いた森林生態系における材収支の評価: 清井寿夫(森林総合研究所)ら	
14:30	T1-1 非保護区での鳥類の減少: 17年間の全国での繁殖期と越冬期のモニタリング: 河村和洋(森林総合研究所)ら	S4-2 インドネシアの有用林業樹の遺伝的起源と温暖化後の将来の植林材料の推定: 津村義彦(筑波大学)ら	S11-2 エフィビットコミュニケーーションズ(株)の取り組み: 谷船勝久(エフィビットコミュニケーションズ(株))	N-2 松茸の成育環境における土壤表面の改良: 藤田登(京都府農林水産技術センター)ら	J-2 山地森林流域の流出平準化機能を決める要因の推定: 朝木寛樹(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	T7-2 高分解能炭素シミュレーターを用いた日本の森林のNBP推定の試み: 小南裕志(森林総合研究所)ら	
14:45	T1-2 気候変動下の海岸林枯死と生態系サービスの経済評価: 大森結衣(京都大学)	S4-3 Eco-physiological approach to identify resilience of tropical timber species: 沢合清定(国際農林水産業研究センター)ら	S11-3 木質バイオマス発電の現状と事業継続性に関する考察: 佐藤政宗(株式会社森のエネルギー研究所)	N-3 マツタケ胞子の接種方法の検討: 小島永裕(滋賀県琵琶湖環境科学研究所)ら	J-3 倾斜観測から推定される降雨から流出への変換メカニズムとのモデル化: 小島永裕(滋賀県琵琶湖環境科学研究所)ら	T7-3 マツ枯れによる森林壊乱が引き起こす炭素損失リスクの全国評価: 平田晶子(森林総合研究所)ら	
15:00	T1-3 日本の人工林における鳥類多様性保全: 分布モデルと林分経済価値からの考察: 山浦悠一(森林総合研究所)ら	S4-4 Transcriptome approach to identify resilience of tropical timber species: SudarmonawatiEnny(National Research Innovation Agency)ら		討論・調整	討論・調整	討論・調整	
15:15	討論・調整	S4-5 Enhancing Resilience to Tropical Timber species Using Genomic Selection Model: MeinataAlinus(University of Tsukuba)ら		N-4 マツタケ感染菌を移植した候補伐採地におけるマツタケDNAの面的分布: 成松真樹(岩手県林業技術センター)ら	J-4 林地における水資源涵養量: 小島永裕(滋賀県琵琶湖環境科学研究所)ら	T7-4 主伐を伴う人工林の炭素の固定期間に基づくクリケット発行方法の検討: 佐藤惟生(東京農工大学)ら	
15:30	T1-4 スギを植栽したのに広葉樹林になるのはどのような場所か-山形県北部の例-: 野口麻穂(森林総合研究所東北支所)ら	S4-6 Implementation in tropical forestry through mass propagation of selected individuals and superior trees: 山岸祐介(住友林業株式会社)ら	T8 調和的木エネ利用	N-5 原木シイタケホダ場における有効積算温度の人工衛星からの推定: 川本啓史郎(長崎県農林技術開発センター)ら	J-5 流域スケールでの木の発生・滞留・流下条件を考慮した流出特性の評価: 中島啓太(名古屋大学)ら	T7-5 林分と木材製品の蓄積変化および代替効果を考慮した炭素吸排量長期評価: 関裕泰(森林総合研究所)ら	
15:45	T1-5 王子ホールディングスの保持林業への取り組み: 豊島悠哉(王子マネジメントオフィス株式会社)ら	S4-7 林木育種や林業施設が生態系機能に及ぼす影響: 土居GIG動態の観点から: 近藤俊明(国際農林水産業研究センター)ら	趣旨説明	T8-1 地域産ヤナギによるバイオマス発電所向け燃材生産の試み: 関子光太郎(富山県農林水産総合技術センター森林研究所)ら	J-6 花崗岩基岩に貫入したドレーリト岩脈が山地流域の流出過程に与える影響: 平尾雅惟(信州大学)ら	T7-6 伐採木材製品による炭素貯蔵推計にむけた建築物の寿命解析: 加藤千裕(東京農工大学)ら	
16:00	T1-6 保持林業および類似する実践事例の収集: 山中聰(森林総合研究所)ら	S4-8 Sustainable Use of Forest Resources and Improvements in Livelihoods for Forestry Farmers: TrianaNovelia(Nagasaki University)		T8-2 山岳地域の道路規格を考慮した未利用材利用可能量推計: 有賀一広(宇都宮大学)	討論・調整	T7-7 伐採木材製品の炭素貯蔵量推計にむけた建築物の寿命解析: 加藤千裕(東京農工大学)ら	
16:15	討論・調整	S4-9 Achievement of nationally determined contributions (NDCs) and adaptation plan in Indonesian LULUCF sector: Widiyatno(Universitas Gadjah Mada)ら		T8-3 木質バイオマス燃料及びバイオガスの国際標準化の動向と課題: 吉田貴祐(国立研究開発法人森林研究・整備機構)	J-7 斜面形状が降雨流出ピークに及ぼす影響による数値シミュレーション: 小杉賢一朗(京都大学)	討論・調整	
16:30				討論・調整	J-8 森林流域における地表面および基岩面地形から見た集水構造と流出の関係: 勝山正則(京都府立大学)ら		
16:45				T8-4 製材工場の木材乾燥エネルギーについて: 久保山裕史(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	J-9 亂風岩盤内の地下水位観測による流域貯留機能評価: 猪越翔大(名古屋大学大学院)ら		
17:00				T8-5 真庭地域における林業クラスターを基盤とするバイオマス利活用システム: 澤田直美(真庭バイオマス発電株式会社)ら	J-10 Measurement and modelling of the late winter snow depth over Mt Dairoku in central Hokkaido: ChandratilakeThilakawansa(THE UNIVERSITY OF TOKYO)	討論・調整	
17:15				T8-6 環境・社会・経済のバランスがとれた木質バイオマスエネルギー利用の論点: 横田康裕(森林総合研究所)			
17:30				討論・調整			
17:45							
18:00							
18:15							
18:30							
18:45							

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月18日午前 1/2

会場	Leo Esaki メインホール	101	中ホール200	201A	201B	202A	202B	
開始時刻	S2 森林サービス産業	立地	造林1	林政3	経営3	風致・観光1	動物・昆虫1	
9:00	S2-1 マレットゴルフによる森林の継続的利用：三木鉄郎（信州大学）	I-1 スギノキ人工林における斜面位置による土壤温室内効果ガスフラックス特性：飯田匡司（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	E-1 立山のスギ巨木のサイズと樹形 一樹形から藩政期の森林利用を読み解く：杉田久志（富山県立山カルデラ砂防博物館）ら	A-14 低等級木材の有効利用による家具の新たな価値創造：炭素固定効果の算出：徳永友花（東京大学大学院農学生命科学研究科）ら	D-17 北海道・道東地域を対象とした森林計測と樹種判別 ①計測と点群解析：矢口慎（株式会社かたばみ）ら	B-1 発表取り消し	L-1 クマ剥ぎ対策としての塗装型忌避剤の効果：柳澤賢一（長野県林業総合センター）ら	
9:15	S2-2 森のようちえんの森林利用：丹羽英之（京都先端科学大学）	I-2 高山性木本植物の継続を介した栄養塩獲得戦略：異なる菌根タイプ間の比較：斎藤竜之介（信州大学大学院）ら	E-2 Relative stress on a tree stem in even and uneven-aged forests in Slovenia: 上村佳奈（信州大学）ら	A-15 わが国における瓶包材製材の展開：嶋瀬拓也（森林総合研究所）	D-18 北海道・道東地域を対象とした森林計測と樹種判別 ②分類精度の評価：郷方誠二郎（鹿島建設株式会社）ら	B-2 Which Pathways lead to Higher Collaboration Satisfaction?: Social Network and fsQCA Study for Minami-Alps EcoPark : 王奕寧（東京大学）ら	L-2 遺伝的多様性指標に基づくツキノワグマの評価と保護管理への検討：小井土彌々子（京都大学）ら	
9:30	S2-3 都市に残された里山が創始する多元的活動：鍛田磨人（鹿島大学）	I-3 土壤微生物群集の深度方向の変化と窒素・炭素無機化速度との関係：中山理智（岡山大学）ら	E-3 石狩川原流域における風倒後70年間の林分推移：酒井武（森林総合研究所）ら	A-16 焙乾用薪の生産流通構造：清水浩貴（鹿児島大学）ら	D-19 ALOS-2フルボリメトリデータを用いた複数樹種の樹高推定：福井翔宇（東京ガス株式会社）	B-3 文献調査からみる国立公園の利用と今後の展望：小山岐（東京農業大学）	L-3 信州伊那谷におけるツキノワグマ Ursus thibetanus の機能的連結性評価：松本拓馬（筑波大学）ら	
9:45	S2-4 関係性価値の観点から考える森林サービス産業と多様な森林利用：山本信次（岩手大学）	I-4 常陸太田試験地における皆伐後の里山生態の経年変化：諸橋佑星（京都大学大学院）ら	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	
10:00	S2-5 無住化集落における人と「ヤマ」との関わり：岡田航（尙納学院大学）	I-5 Regional Drivers of Stream Nitrate in Forested Watersheds of Kyushu Main Island : MaungNay Lin (Kyoto University) ら	E-4 ハイブリッド型苗木生産システムによるカラマツ苗木の植林後の生育評価：溝田麗子（株式会社大林組）ら	A-17 里山ボランティアの担い手となるシニアの人像について：石山賛也（東京農業大学）	D-20 Assessing Forest Change in Ridge-to-reel Landscape of Solomon Islands using Multitemporal Satellite Data : BeuMcLessey (新潟大学) ら	B-4 やんばる国立公園における入城料に関する支払意願額と規定要因：清水智文（名古屋大学）ら	L-4 2024年秋に鳥取県で大量捕獲されたツキノワグマの特徴：西介介（鳥取県林業試験場）	
10:15		討論・調整	E-5 ハイブリッド育成苗木の成長予測モデル化手法の検討：下山真人（株式会社大林組）ら	A-18 行動変容理論に基づく森林の多面的機能に資する森林所有者の管理行動の分析：三ツ井聰美（筑波大学）	D-21 Assessing Orthophoto Accuracy from Aerial Photographs through Various Image Scanning and Digital Acquisition Methods : Kyaw Win (Forestry and Forest Products Research Institute) ら	B-5 富士山来訪者管理戦略の現状と課題：寺崎竜雄（静岡県立大学）	L-5 センサーによるシカ捕獲の効果検証：園田美和（熊本県北広域部）ら	
10:30			E-6 Changes in Soil Nitrogen Dynamics after Clearcutting and Reforestation at the Hitachi Ota Experimental Site : -- (Kyoto University) ら	A-19 佐久地域におけるカラマツ林主伐後の再造林促進要因の検討：岸野秀（東京大学大学院）ら	D-22 ドローンによる広葉樹林の3D単木樹型と樹種分類：荒井秀（精密林業計測株式会社）ら	B-6 統合モデルによる国立公園の経済評価：ビッグデータとWebアンケートの分析：栗山浩一（京都大学）ら	L-6 白山におけるニホンジカの侵入状況調査2025年－自動撮影カメラと食痕調査－：近藤崇（石川県白山自然保護センター）ら	
10:45			討論・調整	E-7 持続的な広葉樹林施策に取組む山形県置賜地方の共有林の事例：齋藤智之（森林総合研究所）ら	A-20 タンザニアにおけるREDD+政策の進展－セーフガードに着目して：福崎崇（聖心大学）	D-23 広葉樹林におけるICTを活用したバイオマス資源量推計に関する研究：戸橋ななみ（芝浦工業大学）ら	B-7 公的地理情報を用いた登山道の魅力度や体力要求量の可視化：松浦俊也（国研）森林研究・整備機構森林総合研究所	L-7 EPN共生細菌の散布によるマツ材線虫病予防効果の検証に向けた予備試験：小澤壯太（国研）森林研究・整備機構
11:00				E-8 鳥取県におけるスギ特定苗植栽1年目の成長：赤井広野（鳥取県林業試験場）	A-21 防風柵による林業被害軽減の現状と課題：垂水重紀（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所四国支所	D-24 林補助の利害不一致のもとで目標供給量を満たす木材生産林の分布と面積：守口浩（信州大学）	B-8 登山道維持管理における登山道台帳の必要性：大宮徹（NPO法人 富山県自保保護協会）ら	L-8 マツノマタラカミキリに有効なRNAi農薬の開発に向けて：桐野巴瑞（森林総合研究所）ら
11:15				E-9 北海道東部における天然林折伐施設地の長期動態：吉田俊也（北海道大学）	A-22 航空レーザ計測データを用いた森林GISによる林業収益性的可視化：金山知広（元京都大学）	D-25 近自然林業における選木方法の国際比較：北海道とスロベニアでの実践事例：小林徹（東京大学北海道演習林）	B-9 野付風蓮道立自然公園の国定公園化に対する地域関係者・利用者の意識：愛甲哲也（北海道大学）	L-9 オオアカシヒラハバキから検出された細胞内共生細菌ボルバキアについて：相川拓也（森林総合研究所）ら
11:30				討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整
11:45								
12:00								
12:15								
12:30								
12:45								
13:00								
13:15								
13:30								
13:45								

ポスター発表のコアタイム（対面会場）

{高校生ポスター：12:00-14:00}

{一般ポスター：13:00-14:00}

研究発表題目(企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表) 3月18日午前 2/2

会場	中ホール300	303	304	402	404	405	406
開始時刻	S3 フォレスター比較	遺伝・育種1	微生物1			防災・水文2	利用
9:00	S3-1 講旨説明	F-1 葉緑体DNAの変異と倍数性および形態に基づくオオズミの分類学的再検討：工藤真泉（東京大学大学院）ら	M-1 山口県のスギ・ヒノキコンテナ苗で発生した病害：吉岡陸人（山口県農林総合技術センター）ら	J-11 地すべり斜面の拡大崩壊を引き起こした豪雨と地下水の観測事例：浅野忠穂（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	K-1 常陸太田試験地における作業道の土壤諸特性の経年変化：北原社恭（京都大学大学院）ら		
9:15	S3-2 日本における現場フォレスターの認識：石崎涼子（森林総合研究所）ら	F-2 フモトミズナラの遺伝的変異の地理的変異：井上元貴（岐阜大学大学院）ら	M-2 スギとヒノキの苗立枯病から分離された <i>Fusarium</i> 属菌の病原性：市原優（森林総合研究所関西支所）ら	J-12 森林と豪雨災害に関する予備的検討：執印康裕（九州大学）	K-2 山岳地域の道路網での経路分析による道路規格区分を考慮した運搬効率の検討：鈴木博志（高知大学）ら		
9:30	S3-3 台湾における現場フォレスターの認識：笹田敬太郎（（国研）森林総合研究所九州支所）	F-3 古代遺伝的接触：Korean and Japanese subalpine firs, <i>Abies veitchii</i> and <i>A. koreana</i> : WorthJames (国立研究開発法人森林総合研究所)	M-3 木材変色菌 <i>Chalaropsis thielavioides</i> のスギに対する病原性評価：升屋勇人（（国研）森林研究・整備機構）ら	J-13 力学モデルによる樹木質量の推定：升屋勇人（（国研）森林研究・整備機構）ら	K-3 タワーヤード作業を考慮した幹線路網の設計支援手法の検討：矢部浩（鳥取県林業試験場）		
9:45	S3-4 インドにおける現場フォレスターの認識：大田真彦（長崎大学）	討論・調整	討論・調整	討論・調整	K-4 森林水系の高精度抽出に向けたDEM解像度・前処理・アルゴリズムの検討：瀧川瑞己（東京農工大学大学院）ら		
10:00	S3-5 フィリピンにおける現場フォレスターの認識：葉山アツコ（久留米大学）	F-4 サワラとヒノキの乾湿環境における適応的遺伝子浸透の可能性：堀部真生（岐阜大学）ら	M-4 北海道東部のアカエゾマツ林における地表更新の成否と土壤病原菌の関係：岩切紘佳（東京大学大学院）ら	J-14 一ツ瀬川上流部における崩壊地の植生回復予測モデルの構築：篠原慶規（宮崎大学）ら	K-5 マレーシア・サラワク州における森林モデル・機械学習によるシナリオ解析：大堀真（東北工業大学）ら		
10:15	S3-6 インドネシアにおける現場フォレスターの認識：志賀薫（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	F-5 ヒノキ科3種のゲノム解読により見出された染色体構造変異：白澤健太（かずさDNA研究所）ら	M-5 日本でユーカリ類の病害上に見出された <i>Calonectria</i> 属菌とその病原力：坂上大翼（東京大学）ら	J-15 2024年能登半島地震後に見出された森林での幹折れの実態把握：山村航大（宇都宮大学）ら	K-6 シミュレータを用いた森林条件に対する自己位置推定精度の検証：中込広幸（森林総合研究所）		
10:30		F-6 ブナ科植物ダジイとカクミガシのハプロタイプレベルでのゲノム解読：實下愛梨（九州大学）ら	M-6 枯損状況の異なるカラマツ類幼齢木における感染ナラタケ属菌の違い：和田尚之（北海道立総合研究機構林業試験場）ら	J-16 火山灰降下の影響をうけた茨城県常陸太田市の花崗岩丘陵地における土層劣化：渡邊卓磨（森林総合研究所）ら	討論・調整		
10:45		討論・調整	討論・調整	討論・調整	K-7 ニュージーランドのウインチアシステムと日本型普及モデルの検討：佐々木尚三（KITARINラボ）ら		
11:00		F-7 クローン検定林のレガシーデータによる空間自己相間を考慮した樹高成長評価：江島淳（佐賀県林業試験場）	M-7 木植による打音の異常はどのような病徵を反映しているか：広葉樹での事例：山下聟（森林総合研究所）ら	J-17 UAVで観測した台風倒木被害分布と気象・地形対応CFD解析との比較評価：米康亮（島根大学）	K-8 Towards Data-Driven Modeling of Cut-to-Length Harvester Productivity in Japan : LahrsenSteffen（東京大学）ら		
11:15		F-8 異なる日長下におけるスギ3系統の成長の応答及び地上部/地下部比の変化：黒澤陽子（森林総合研究所 林木育種センター）ら	M-8 交配型遺伝子を用いたカラマツ先枯病菌の種特異的プライマーの開発：服部友香子（森林総合研究所）ら	J-18 気候変動下における極端気象が森林に与える影響とその季節間比較：田川花穂（日本大学）ら	K-9 ガス化CHPに適したチップ作成のための切削装置の要件：岩岡正博（東京農工大学）ら		
11:30		F-9 第世代精英樹（サガンスギ）の採穗台木のショットフェロジー：柴田晴矢（佐賀県林業試験場）ら	M-9 廃菌床の再培養によって誘導された醣水・親油性の発現—油吸着材への応用—：陶山大志（島根県中山間地域研究センター）	J-19 森林斜面における土壤乾燥の違いを決める立地・土性条件の数値的検討：開口範人（森林総合研究所）ら	K-10 ヒノキ伐倒木の倒伏速度および慣性モーメント：松本武（東京農工大学大学院）		
11:45		討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	
12:00	ポスター発表のコアタイム（対面会場） （高校生ポスター：12:00-14:00） （一般ポスター：13:00-14:00）				森林科学 総会議	ポスター発表のコアタイム（対面会場） （高校生ポスター：12:00-14:00） （一般ポスター：13:00-14:00）	
12:15							
12:30							
12:45							
13:00							
13:15							
13:30							
13:45							

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月18日午後 1/2

会場	Leo Esaki メインホール	101	中ホール200	201A	201B	202A	202B
開始時刻	学会企画3	植物生態	造林2	林政4	経営4	風致・観光2	動物・昆虫2
14:15	高校生ポスター表彰式	W-1 タケサギ一齊開花を予測し待ち伏せる～長野県スズダケの開花前年動向～：小林慧人（森林総合研究所関西支所）ら	E-10 ニホンジカ不嗜好性早生樹「アブラガリ類」の可能性：大場孝裕（静岡県）	A-23 都市住民の森林への関与意欲からみた都市と農村連携による森林整備の方向性：石佳凡（早稲田大学）ら	D-26 森林薄に頼らない森林管理：メッシュデータによる森林情報管理の試み：村上拓彦（新潟大学）ら	B-10 沖縄本島における緑化樹木生産の現状：藍場将司（琉球大学）ら	L-10 植木林業が里山林の生物多様性に与える影響の考察：西本里美（三井共同建設コンサルタント株式会社）ら
		W-2 温帯林における木本性つる植物の増加に対するクローン繁殖と搅乱の役割：森英樹（森林総合研究所）ら	E-11 寒なる土壤条件に植栽した同一系のセンダンの成長について：柴田寛（鳥取県林業試験場 森林管理研究室）	A-24 熊野古道伊勢路における標識や文化財等の管理状況：平山和虎（東京大学）ら	D-27 リモートセンシングによる森林ゾーニング実証～財産区での適用～：丸山拓見（精密林業計測株式会社）ら	B-11 樹術用網の資源確保を目的としたカン類人工林の協働管理の取組み：若山学（奈良県森林技術センター）ら	L-11 寒葉性苔虫ヤノナミガタチビタマムシの成虫の発生に早期落葉が与える影響：大澤正嗣（山梨県森林総合研究所）ら
		W-3 ナラ枯れによる林冠消失が他樹種の林冠拡大に及ぼす影響：奥山雅隆（東京農業大学）ら	E-12 ウルシ林の最多密度と樹幹表面横一則の検定：真坂一彦（岩手大学）ら	A-25 森林開闢ガイドアンケート結果から探る生態系サービスビジネス化の可能性：高橋卓也（滋賀県立大学）ら	D-28 近自然型森林管理における先端デジタル技術の活用可能性：部述求（東京大学）ら	B-12 林内作業道に関する人頭学的研究：門馬凌汰（埼玉大学）	L-12 ピロワカミキリのユズリハ選好性：江崎功二郎（石川県農林総合研究センター林業試験場）ら
15:00	大学見学ツアーアー（筑波大学～17:00）	討論・調整	討論・調整	A-26 発表取り消し	討論・調整	B-13 地域交流が支える山菜・きのこ採取活動とコロナ禍の影響：吉川拓哉（（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	L-13 カンノナガキイムシの忌避によるナラ枯れ防除：小林正秀（京都府森林技術センター）
15:15		W-4 気候変動に伴う中部地方のブナ科3樹種における開芽時期の変化と将来予測：水谷理希（信州大学）	E-13 農地跡地での植栽木の成長と土壤の浸透能：園田秉央（鳥取県林業試験場）	討論・調整	D-29 生物多様性保全を考慮した森林ゾーニングの試行：光田靖（宮崎大学）	討論・調整	討論・調整
15:30		W-5 気候変動下における群集温度指標と機能群別バイオマスの変化：金森由紀（岩手大学）ら	E-14 九州産スギ6品種の樹高と直径の関係：品種試験地45年目の結果	A-27 現代の山村地域における子どもの遊びの実態：長野県下水内郡深村を事例に：矢部瑞季（東京農業大学）ら	D-30 古い空中写真による時系列3Dモデルの作成－一能登地域における事例－：小谷英司（森林総合研究所）ら	B-14 森林散策頻度と生きがい・幸福感、自然への敬歌の念との関連：SLEPT Study：森田えみ（（国研）森林研究・整備機構）ら	
15:45		W-6 アンデス・アマゾン地域における山地森林生態系の森林劣化評価：宮本和紘（（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	E-15 セニキ人工林における間伐強度の違いが20年後の林床構造に及ぼす影響：市栄智明（京都府立大学）ら	A-28 中山間地域における高齢者の貴重な資源：高野涼（弘前大学）	D-31 機械学習を用いた鹿嶋の島町における森林・通院支援はどうあるべきか	B-15 都市・都市近郊・地方域住民の森林への関心、訪問頻度に関する比較：小田龍聖（森林総合研究所）ら	
16:00		W-7 発表取り消し	討論・調整	A-29 山形県内の有料わらび園の実態調査結果（第一報）：柴田晋吾（上智大学）ら	D-32 空撮データを用いたスギ人工林のクマ剥ぎ被害木の特徴抽出の検討：田和佑條（富山県農林水産総合技術センター）ら	B-16 都市緑地の経済価値評価：札幌市を対象としたヘドニック法による分析：森田真摠（北海道大学）ら	
16:15	閉会式（学生ポスター賞授賞式）	討論・調整		A-30 国内の山地放牧の存続条件について－兵庫県美方郡を事例として－：藤井希実子（東京農業大学）ら	討論・調整	討論・調整	
16:30		W-8 路盤構造に着目したササ侵占型冷温帯成熟林における葉群の空間分布と変動：樋田時（筑波大学）ら	討論・調整		D-33 スマート林業を用いた大学発スタートアップの山村課題への挑戦II：加藤正人（信州大学）ら	B-17 i-Treeによる文化的価値評価のための3次元データを用いた景観解析：斎藤拓海（千葉大学）ら	
16:45		W-9 樹種によって異なる日本の森林の堆積有機物層の厚さ・量：真中幸也（森林総合研究所）ら		A-31 生成A I二重サンプリングによる県議会議事録の森林環境議論と税論議構構解釈：大森宏（東京大学）ら	D-34 発表取り消し	B-18 倉久根の有する生態系サービスに対する住民の選好：豆野皓太（北海道大学）ら	
17:00		W-10 累積的なシカ採食影響下での間伐が林床構造の機能的役割に及ぼす効果：谷脇徹（奈良県自然環境保全センター）ら		A-32 都道府県による森林環境議論と税の使途の定量分析：樋川武（東京大学）ら	D-35 バイオマス燃料製造を主業とした林業の収益性分析：小川朋大（芝浦工業大学）ら	B-19 クマ出没急増をめぐる一般市民の認識と対策への評価：庄子康（北海道大学）ら	
17:15		W-11 佐渡島の天然スギの成長特性－多雪山地間での比較から－：榎本幸也（新潟大学）ら		A-33 近代秋田地域の国有林経営における森林保護と労働力確保：芳賀和樹（法政大学）	D-36 ネイチャーポジティブな未来へ：森林生態系サービスのシナリオ分析：山田祐亮（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	討論・調整	
17:30		討論・調整			討論・調整	討論・調整	
17:45							
18:00							
18:15							
18:30							
18:45							

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月18日午後 2/2

会場	中ホール300	303	304	402	404	405	406
開始時刻	S5 地域フォレスター	遺伝・育種2	微生物2		防災・水文3	教育2	
14:30	S5-1 日本型フォレスター再考：森林・林業再生プラン等からの状況変化を踏まえて：相川高信（PwCコンサルティング合同会社）	F-10 クリーンラーチ1粒播種によつて1年でコシテナ苗を育苗する技術：中川昌彦（北海道立総合研究機構森林研究部林業試験場）	M-10 Light-mediated responses in ectomycorrhizal fungi: コソンワタナーボブタム（東京大学）ら		J-20 航空機LiDARによる森林火災焼損範囲の抽出：高賀潤一（エアロトヨタ株式会社）ら	C-4 一般向け森林学入門書の制作の試み：園原和夏（日本大学）ら	
14:45	S5-2 民間フォレスターの必要性：小森嵐樹（フォレスタートーズ株式会社）	F-11 カラマツ種子の成熟時期の変異：生方正俊（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター北海道育種場）	M-11 Comparative Single-Reference and Graph Pan-genome GWAS of Ectomycorrhizal Formation in <i>Cenococcum geophilum</i> : 乳徳寧（東京大学）ら		J-21 野林火炎が斜面・流域スケールの水・土砂移動に与える影響：恩田裕一（筑波大学）ら	C-5 サイエンスカフェは進化する：崎尾均（新潟大学）	
15:00	S5-3 片品村での活動について：黒沢秀基（フォレスタートーズ株式会社）	F-12 青森県十和田市のカラマツ採種圃における採取時期別の種子の発芽特性：中島剛（青森県産業技術センター林業研究所）ら	M-12 Identification and functional analysis of long non-coding RNA involved in ectomycorrhizal formation in <i>Populus tremontosa</i> : 堀紫微（東京大学）ら		J-22 爱知県豊田市のヒノキ人工林における間伐前後の水源涵養機能の変化：ファラナクモイン（東京大学）ら	C-6 鳥の鳴き声学習Webツールの開発と評価：種別能力と意識は変化する？：小川結衣（筑波大学）ら	
15:15	S5-4 現場に寄り添う森林づくりの技術：小山泰弘（長野県林業総合センター）	討論・調整	M-13 Functional exploration of candidate genes related to ectomycorrhizal formation in <i>Populus tremontosa</i> : 劉穎（東京大学）ら		J-23 土壤水分観測による林内水収支の推定と間伐の影響評価：若本樹里（筑波大学）ら	討論・調整	
15:30	S5-5 5年目に入った奈良県独自のフォレスター制度について：藤平拓志（奈良県庁）	生理	討論・調整		討論・調整	C-7 森林環境教育プログラムが子どもに与える効果：田村大樹（東京大学大学院）ら	
15:45		G-1 Flavodioiron遺伝子を欠損させたゲノム編集スクの光合成特性の解析：宍澤真一（森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	M-14 人工地盤と自然土壤に生育するイロハモミジに共生するAMF群集の比較：伊藤愛（東京大学大学院）ら		J-24 Transpiration Dynamics of Tropical Forestry Species under Varying Meteorological Conditions in Sabah, Malaysia : ナイーブルアナン（Universiti Malaysia Sabah）ら	C-8 東京大学演習林における多層的森林教育の実践と連携：李曉（東京大学）ら	
16:00		G-2 樹木個体への力学的ストレスは呼吸増加による成長飽和をもたらすか：森茂太（山形大学）ら	M-15 環境条件の異なるヒノキ天然林と人工林のアーバスキュラー菌根菌群集：菖蒲周（東京大学）ら		J-25 透断蒸発の主要メカニズムは飛沫蒸発：村上茂樹（森林総合研究所）	C-9 森林環境下における課題解決型体験活動の効果：山縣みる子（北海道教育大学岩見沢校）ら	
16:15		G-3 越冬ツバキ花芽の凍結様式のMRIによる可視化：石川雅也（東京大学大学院）ら	M-16 屋久島の人工林と天然林の特徴に開わるアーバスキュラー菌根菌の群集構造：松田陽介（三重大学）ら		J-26 枝葉シートの雨水保持・排水特性における樹種間差異の実験的検討：南光一樹（東京農業大学）ら	討論・調整	
16:30		G-4 狂施肥が養分状態のよいスギコシテナ苗の耐寒性に及ぼす影響：飛田博順（森林総合研究所）ら	M-17 秋父山地の亜高山帯林におけるイワダレゴケ茎葉体上の菌類群集の遷移：金子拓未（東京大学大学院）ら		討論・調整	C-10 森林と有機的に繋がる体験プログラムの検討－森林レンタルの活用を通して：中村和彦（東京大学）ら	
16:45		討論・調整	討論・調整		J-27 Effects of forest stand structure on throughfall erosion and model development in Japanese cypress plantations : 全慧暎（九州大学）ら	C-11 自然観察のあり方を理解する森林環境教育プログラムの効果：山田亮（北海道教育大学）ら	
17:00					J-28 森林回復流域における年蒸発量変動に外的環境要因が及ぼす影響：浅野友子（東京大学）ら	C-12 ケニア社会林業プロジェクトの成果と教育効果の検証：中山絢之（岡山理科大学）	
17:15					J-29 林内における雨滴径の鉛直変化に着目した透断蒸発メカニズムの検討：鈴木梨花（宇都宮大学）ら	C-13 世界遺産の森の価値を学び、伝える解説活動のあるべき姿：大島順子（琉球大学）ら	
17:30					J-30 モンゴル森林－草原エコトーンにおける永久凍土活動層と植生土壤構造の関係：森村佳祐（名古屋大学）ら	討論・調整	
17:45					討論・調整		
18:00							
18:15							
18:30							
18:45							